

事例10-1

取組名	15年後を見据えた町会運営の在り方検討		
町会名	まつばら 松原第1～第7町会（松原地区）	町会 データ	・人口／2,956人 ・世帯数／1,300世帯 ・高齢化率／30.28% ・町会加入数／799世帯 ・隣組数／125班
取組概要	○ 第1から第7までの町会長が意見交換や情報交換する中から、15年先を見据えた町会の在り方について検討		

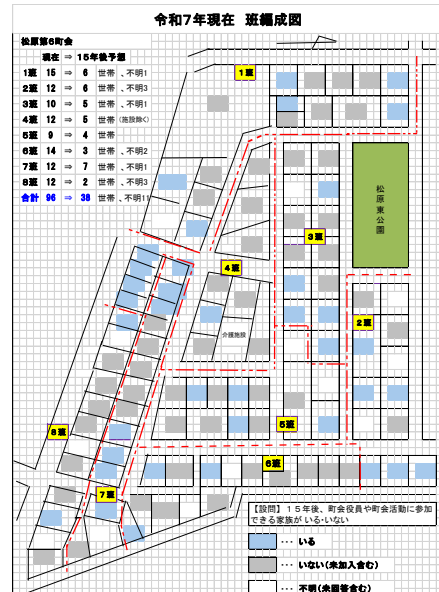
背景・課題

- ・ S53年の土地区画整理事業によって松原団地が開発されたのを契機にS63年、松原町会が設立された。それ以前は寿地区白川町会の1つの常会だった。
- ・ H15年に地区としての位置づけがなされ、H22年松原地区公民館・福祉ひろばが開館、H26年に地域づくりセンターが設置された。
- ・ 松原団地として分譲されたS50年代以降に新築して転入した方々の高齢化が進み、近年は特に後期高齢者の割合が、R元年度9.3%からR7年度15.8%に急激に上昇
- ・ 町会加入率は、市全体と比べても低く、特にアパート・マンションが多い町会の加入率が低い。加入率が高い町会も高齢化が進み、役員のなり手不足など、町会活動の継続が課題となっている。古くからの集落が基ではないため、お祭りなど地域の風習は無く、町会独自の活動も少ないため、住民同士のつながりづくりのためには地区事業の実施が必須だが、担い手となる人材が少ない。

経過・取組内容

- ・ 松原地区町会連合会では、R7.9から町会長懇談会を毎月理事会（町会長と各種団体の代表者の会議）の前段で開催し、町会が抱える課題等について自由に意見交換をしている。
- ・ その中で第6町会が、15年後に町会役員や町会活動に参加できる家族がいるか否かを尋ねたアンケートの結果として96世帯中38世帯しか担い手が「いる」と答えなかったことを報告した。
- ・ これにより、持続可能な町会に向けた抜本的な見直しの必要性が町会長の間で共通認識となり、

第6町会から示されたアンケート結果



独居高齢者の町会費の負担軽減や役員報酬に関する情報交換等、積極的な意見交換の場になった。

成果・今後の展望等

- ・ 町会長懇談会で情報や意見を交換する中で、他町会の町会長から知恵や情報提供により、各町会での検討の一助となることが増えている。
- ・ 連合会で統一する目安を示し、各町会で最終的に検討して決定という方向性が確認できた。
- ・ 松原地区は2年で町会長が総交代するが、旧町会長が町会長懇談会に無理のない範囲で参加し、活発な議論が継続できるようにする。

【ポイント】

- ▼ 町会長懇談会により、各町会の課題を地区全体で議論共有し、解決に向け取り組む